

タブレット端末を活用した保育での取り組み内容の調査

Study of Utilization of the Tablet Device on Child-care by questionnaire

堀田博史* Hiroshi HOTTA	松河秀哉*2 Hideya MATSUKAWA	奥林泰一郎*2 Taichiro OKUBAYASHI	森田健宏*3 Takehiro MORITA
深見俊崇*4 Toshitaka FUKAMI	中村恵*5 Mugumi NAKAMURA	松山由美子*6 Yumiko MATSUYAMA	佐藤朝美*7 Tomomi SATO

園田学園女子大学* Sonoda Women's University	大阪大学*2 Osaka University	関西外国語大学*3 Kansai Gaidai University	島根大学*4 Shimane University
奈良佐保短期大学*5 Nara Saho College	四天王寺大学短期大学部*6 Shitennoji University Junior College	愛知淑徳大学*7 Aichi Syukutoku University	

〈あらまし〉 幼稚園におけるタブレット端末を活用した保育について、どのような取り組みに意欲を持てるかを知るために、全国 1,000 園を対象に質問紙調査を実施した。幼児と保育者それぞれが主体で取り組む活動例各 8 項目を用意して 5 段階で評価した結果、ほとんどの項目で評定平均値が 3.0 を下回り、取り組み意欲は低く、イメージが抱きにくいとも解釈できた。その中でも「幼児が育てている小動物や植物をカメラ機能で撮影して、その様子を振り返る」「図鑑アプリで、幼児が興味・関心を持った内容を調べる」「保育者が運動会の練習風景などを撮影・録画して、プロジェクタで大きく投影して振り返る」については、取り組みへの意欲が比較的高い傾向が見られた。

〈キーワード〉 幼児教育, タブレット端末, 教育メディア, 保育

1. はじめに

ここ数年、文部科学省や総務省の事業では、小学校・中学校・特別支援学校のモデル校を対象に、1人1台の情報端末の効果的活用の実証研究が展開された。幼稚園はその対象ではないものの、保育でのタブレット端末の活用が少し見られるようになってきた。

例えば、(株)スマートエデュケーションが、2014 年度より立ち上げた KitS プロジェクトでは、子ども達の可能性を広げ、21 世紀型スキルの習得を目指している (<http://kdkits.jp/>)。また三重県伊勢市・明倫幼稚園では、知育アプリなどをグループで使用して、互いに教え合いながら遊ぶ時間を確保している (<http://meirin-y.com/html/tablet.html>)。

このような個々の目標を定めた展開はあるものの、幼稚園でのタブレット端末の活用として、どのような取り組みが受け入れられるか、の調査は行われておらず、取り組みは現在、模索状態であると言える。

2. 研究目的と方法

そこで本研究では、幼稚園におけるタブレット端末を活用した保育について、どのような取り組みに意欲を持てるかを明らかにする。

2.1. 期間および対象

2014年6月中旬から7月中旬までの回答期間で、全国 1,000 園(国公立 497 園・私立 503 園、都道府県各 22 園)の幼稚園に調査を依頼した。

2.2. 方法および調査項目

質問紙を郵送して、専用封筒にて返信を願った。幼稚園での回答者は特に指定せず、1つの幼稚園で1件の回答とした。調査項目は、(1)教職員数やクラス数、パソコン・タブレット端末の活用の有無などの概要の他に、(2)タブレット端末を活用して保育で取り組む内容の可能性、(3)期待できる効果、(4)不安・心配事項等である。本稿では(2)に注目する。

3. 結果と考察

7月15日までに254園より返信(有効回答数240/内訳:国公立125園、私立115園)があった。現在幼児が保育でパソコンを利用している園は、検討中

も含め 19 園(全体の約 7.9%), タブレット端末の利用は 9 園(全体の約 3.8%)であった。

タブレット端末を活用した保育での取り組みとして、幼児と保育者それぞれが主体で取り組む活動例(表 1)に、「1:非常に取り組んでみたい」から「5:全く取り組んでみたいと思わない」の 5 段階で評価を得た。なお、評価は逆転項目で処理した。

結果、ほとんどの項目で評定平均値が 3.0 を下回り、タブレット端末の保育での取り組み意欲は低く、イメージが抱きにくいとも解釈できる。特に、A では(ウ)平均値 2.2, (キ)平均値 2.3, B では(セ)平均値 1.9, B(シ)平均値 2.0, の項目で低い値となった。

逆に、評定平均値 3.0 以上の項目は、国公立では A(ア)平均値 3.1, A(オ)平均値 3.3, B(サ)平均値 3.0, 私立では A(オ)平均値 3.2 であった。そこで、A・B それぞれの項目に関して、一元配置の分散分析を行った結果、A・B とともに有意差(A:(F(7,1909)=16.4,p<.01), (B:(F(7,1905)=18.2,p<.01)が見られたので、多重比較を行ったところ、A では(ア)・(オ)が他の項目との間において、B では(サ)が他の項目との間において 1%水準で有意な差が見られた。これらの項目については、比較的取り組み意

欲が高く、イメージが抱きやすいとも解釈できる。

4. まとめ

調査をした幼稚園全般に、タブレット端末の保育での取り組み意欲は低く、イメージを抱にくいとも解釈できた。その中で「幼児が育てている小動物や植物をカメラ機能で撮影して、その様子を振り返る」「図鑑アプリで、幼児が興味・関心を持った内容を調べる」「保育者が運動会の練習風景などを撮影・録画して、プロジェクタで大きく投影して振り返る」については、取り組みへの意欲が比較的高い傾向が見られた。

謝辞

本研究は、平成 26~28 年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))『タブレット端末を活用する幼稚園版「学びのイノベーション」カリキュラムの実践と評価』(研究代表者:堀田博史, 課題番号:26350295)による研究成果です。質問紙調査にご協力いただいた幼稚園に感謝の意を表します。

表 1 タブレット端末を活用した保育での取り組み内容(質問項目)

()は平均値/標準偏差

A 幼児が主体で取り組む活動について

- (2.9/1.4) (ア) 幼児が育てている小動物や植物をカメラ機能で撮影して、その様子を振り返る
- (2.6/1.3) (イ) 幼児が遠足などの園外活動で、カメラ機能で撮影・録画したものを園内で振り返る
- (2.2/1.2) (ウ) 幼児が卒園記念としてビデオ機能で教師や保護者、地域の方にインタビューして作品をつくる
- (2.4/1.3) (エ) 絵本製作アプリで、写真やイラストを交えたオリジナル絵本をつくる
- (3.3/1.4) (オ) 図鑑アプリで、幼児が興味・関心を持った内容を調べる
- (2.6/1.3) (カ) 音楽アプリで、合奏したり、歌唱したりして、音に親しむ
- (2.3/1.3) (キ) 英語アプリで、発音練習をしたり、アルファベットの書き取りをして、外国語に親しむ
- (2.4/1.3) (ク) 幼児がパズルや数、文字遊びのアプリで、知育遊びを行う

B 保育者が保育に取り入れる活動について

- (2.4/1.2) (ケ) 保育者が保育中の幼児の活動をビデオ録画して、保護者のお迎え時に説明する
- (2.5/1.2) (コ) 保育者が特別支援が必要な幼児に、知育アプリで数や文字、描画の遊びを行う
- (2.9/1.3) (サ) 保育者が運動会の練習風景などを撮影・録画して、プロジェクタで大きく投影して振り返る
- (2.0/1.1) (シ) インターネットに接続して、テレビ会議ができるアプリで、離れた地域の友達とやり取りする
- (2.3/1.3) (ス) インターネットに接続して、幼児が興味・関心のある動画(教育番組など)を見せる
- (1.9/1.1) (セ) 幼児がお絵描きアプリで描画した絵を、保護者がインターネットで閲覧可能とする
- (2.1/1.1) (ソ) 発表用の(プレゼン)アプリで、幼児が自園の紹介をしているビデオを作成する
- (2.2/1.2) (タ) 絵本アプリで、音響入りの読み聞かせを行い、臨場感豊かな環境を演出する